

早まる。二俣からは右俣にルートをとる。

小さな斜瀑を越すとすぐまた二俣となるが、ここでも右俣にルートをとる。まもなく水がなくなり、カラマツ林に出る。カラマツ林で少し休んだあと、もときた沢を下降して今日の行動を終える。
(記・矢戸幸務)

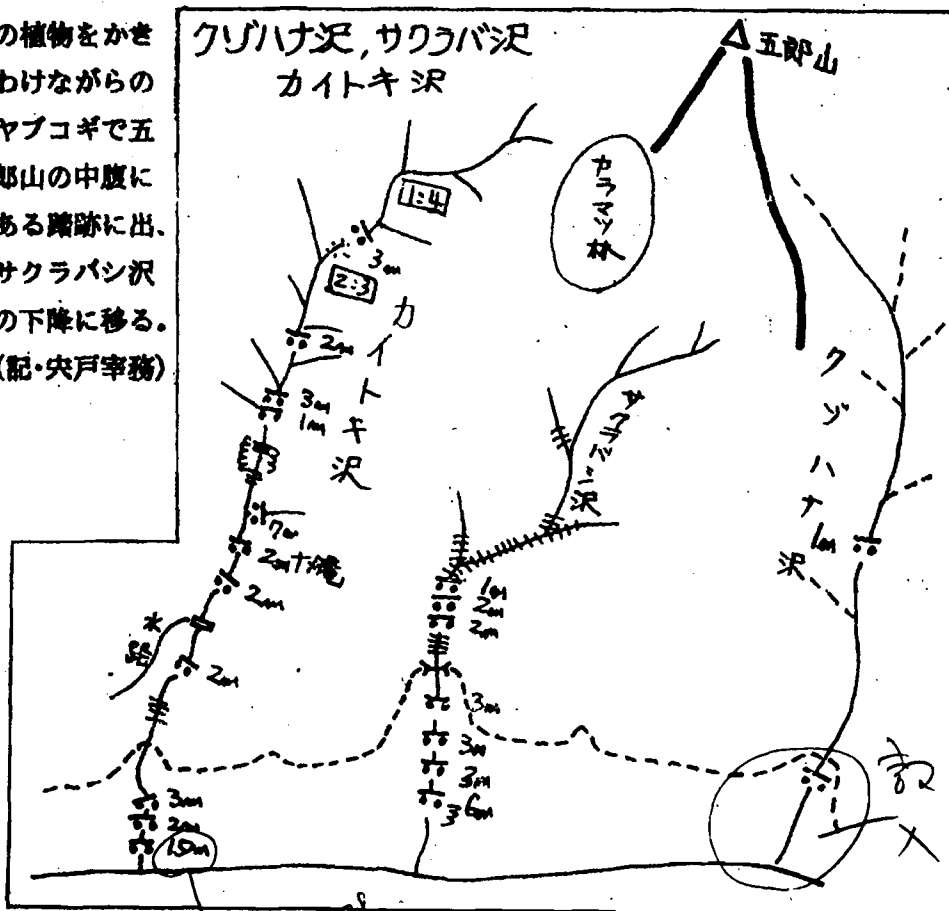
[タイム] 出合(10:40)→沢終了(12:00)

クソハナ沢

1983年10月15日
矢戸幸務(単独)

観音堂沢ぞいの道をクソハナ沢の橋の手前まで歩き入渉する。出合からヤブのおおいかぶさる沢で、小滝、それも1mほどのがあるだけで、大きな支沢もなく、ヤブをかきわけながらの遡行となった。水のなくなった所からはヤマブドウなど蔓性の植物をかき

わけながらのヤブコギで五郎山の中腹にある踏跡に出。サクラバシ沢の下降に移る。
(記・矢戸幸務)



[タイム] クソハナ沢出合(12:00)→遊行終了(12:30)→踏跡(13:20)

デトサネ沢

1983年8月20日

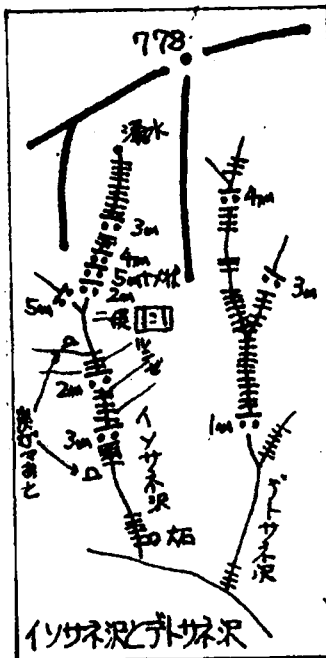
778⁺独標から少し下るとデトサネ沢の源頭であった。10時55分下降開始。デトサネ沢の方は概して平凡。ナメが断続的にでてくるだけで、滝といえるようなものもなく、観音堂沢本流に出てしまった。わずか30分の下りであった。

[タイム] 下降開始(10:45) →観音堂沢本流(11:20)

イソサネ沢

1983年8月20日

沢の大きさ、規模からいってあまり期待はもてないが、果境になっているということで、なぜか気になっていたイソサネ沢を目指して、いつものように戸上向の空地に車を置いて出発。1時間程歩いてから、クソハナ沢



を下りて観音堂沢本流に降り立つ。今日の観音堂沢は、台風5号による大雨の影響がまだ残っていて、水量も多く、水の流れも早い。こんな時には、いつも簡単に通過してしまうナメが意外と通過困難な場所になっている。30分程かかってイソサネ沢出合に到着した。

10:00出合発。すぐV字に切れこんだ沢筋となり、ナメとなる。左右からは何本ものルンゼが合流してくる。やがて二俣。右俣に入る。小滝がかかり、ナメも急峻となってきた。やがて源流。水源は冷たい清水であった。

追記：イソサネ沢に入るため踏跡をたどっている途中、サクラバシ沢のあたりで野猿の群れに出会った。私の視野に入ってきたのは2頭のみであったが、泣声や物音の具合からいって相当数がかなりの範囲に散らばっていた